

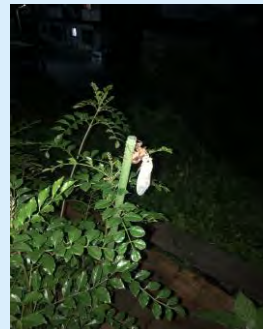
「蝉(セミ)」 土手

梅雨が明け、とうとう暑い夏がやってきました。挨拶を交わす時も「今日も暑いですねー」

「ええ加減にしてほしいわ」が決まり文句ですね。夏バテしないよう、気をつけましょう！

夏の風物詩の一つと言えば、蝉(セミ)ですね。朝早くからミンミンうるさいし、急に飛んだかと思えば、おしっこかけてくるし、大嫌いでした。我家のまわりは、羽化のポイントらしく、以前から抜け殻がよく落ちているのですが、先日初めて羽化中のセミに遭遇しました。何だか、新しい生命の誕生のような、心が洗われる瞬間でした。ながーい地中生活があるセミの一生は儂いものだと、命の尊さを感じ、朝の大合唱もイライラせずいられそうです。いいものが見られました。

・・・ちなみに、セミの鳴き声って、携帯電話を通じると相手には聞こえないらしいです。ご存じでした？



今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【ダイナミックプライシング】

需要と供給に合わせて価格を変動させること。需要が集中する季節・時間帯は価格を高くして収益の最大化を図りながら需要をコントロールする。需要が減少する季節・時間帯は価格を低くすることで需要を喚起する。航空料金、宿泊料金などでは以前からあったが、最近では電気料金やスポーツの観戦チケットなどでも導入が始まっている。市場に関する各種データをAIが分析し、リアルタイムで価格を決める仕組みも整いつつある。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【至誠を貫く人「松平容保（かたもり）」】

幕末期、混乱極まる京都の治安回復に尽力した松平容保は1835年、美濃国高須藩主の六男として生まれました。高須藩は尾張藩の小さな支藩ながら



徳川御三家に次ぐ家柄の名家で、容保は11歳で北の名門・会津松平家の養子となります。ここで家訓として「將軍家への忠勤」を厳しくたたき込まれました。17歳で会津藩主に就任すると養父の代から任されていた房総の警備や、桜田門外での穏便な事態收拾で高く評価されるようになります。

折しも治安が悪化する京都に幕府は京都守護職の設置を決め、容保がその職に任せられます。幕府の形勢が不利な中、貧乏くじともいえる役職に反対する家老もいましたが、容保は「將軍家と盛衰存亡を共にすべし」という家訓を守る」と宣言し、その心意気に感激した家臣たちと共に任に当たりました。しかし、新選組の力も借りて京都の治安を取り戻したものの時代の流れは変えられず、容保が32歳の頃に大政奉還となり、翌年に鳥羽・伏見の戦いが起きます。会津に戻った容保は鶴ヶ城で籠城戦に出るも降伏。その後は長く謹慎生活を送りました。後に尾張徳川家を相続することを頼まれますが「これまで数千人の家臣が命を落としたことを思うと自分だけが華やかな場に戻ることはできない」と固辞。愚直なまでに將軍家への忠心と部下たちへの義を貫いた58年の人生でした。

今を生きる

先人の言葉

平凡は妙手に勝る

将棋界から初めて文化功労者に選ばれた大山康晴の言葉。奇をてらうことなく基本の手を着実に積み重ねていったほうが、最終的には勝利につながるものだろう。

トレンドを斬る!

世界で3軒目となる日本初の「MUJI HOTEL」が「無印良品 銀座」の6~10階で「MUJI HOTEL GINZA」としてオープンしています。

「アンチゴージャス、アンチチープ」をコンセプトに、内装は天然素材を使って新たに開発したバスタブやソファベッドなどを配置し、簡素でありながら良質な無印良品らしさを随所に表現しています。客室内に整然と収納した備品やアメニティは階下の店舗で入手可能です。感じ良い暮らしを提案し、売り上げにも貢献する無印良品の集大成です。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント:【笑顔で施す】

その会社にいつもやってくる宅配便の青年は、女性社員たちのアイドル的存在だといいます。青年が「こんにちは! OO急便です」と会社のドアを開けるとオフィスにいる女性社員たちが寄ってきて、あれこれ青年



に話しかけるのだそうです。

そして夏なら冷たい飲み物を、冬なら温かい飲み物をすすめ、お茶の時間用にと用意してあるお菓子を持たせてあげるのだとか。この様子を見ていた男性営業マンが「別にカッコイイわけでもないのに、なんで彼ばかりモテるのかねえ」とすねてみせると、1人の女性社員はこう言ったそうです。「あんなにニコニコされたら、もっと喜ぶ顔が見たいって思うじゃない」。

お釈迦(しゃか)様の教えのひとつに「布施行」があります。施しをして、執着を捨て、こだわりを減らしましょうということだそうです。お布施と聞くと、お金や財物を施す「財施」を思い浮かべる人が多いように思いますが、だとしたらお金や財産がない人はお布施ができないのでしょうか。もちろんそうではなく、誰でも、いつでも、その場で、簡単にできるお布施があります。お釈迦様はそれを「和顔施(わがんせ)」、または「顔施(がんせ)」と言っています。和顔施は仏教用語の「無財の七施(むざいのしちせ)」のひとつで、人に対して笑顔で優しく接することです。いつもニコニコしていれば、それだけで施しになるようです。宅配便の青年が多くの人から愛されているのは、自然と和顔施をしていたからなのでしょう。商売をうまく軌道に乗せたいならば、今すぐニコニコしてみましょう。和やかな笑顔で人に接していれば、きっと周りの人を幸せにできます。うれしいことや楽しいことがあったら素直に顔や態度に出して、できれば相手の幸せも笑顔と一緒に喜びたいものです。悲しいことや辛いことが起きても、とりあえず鏡の前でニコニコの練習をしてみる。お客さまのために、従業員のために、会社のために、あなたが今すぐできることが和顔施なのです。



トナリの

本棚



【サイレント・プレス】

現役医師である南杏子氏の終末期医療の在り方を問う医療ミステリーです。大学病院から左遷された主人公が終末期医療の大切さに気づき、脳梗塞の父の最期にある決断を下します。どのような生き方を望むのかを考えさせられる一冊です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております☺☺☺☺☺☺